

子ども会は減少傾向

現在西区では、西区民センター内にある札幌市子ども会育成連合会西区事務局と西区子ども会育成連合会（西子連）を中心に、各子ども会や西区全体での活動が展開されています。

西子連の歴史をひもといてみると昭和四十九年四月までさかのぼります。この時、子ども会は三十九団体、会員数は三千百三十七人で、その後、会員数は増加を続け、百団体、一万人を突破した時期もありましたが、平成元年の手稲区との分区により減少し、現在では、六十一団体、三千三百八十六人が活動しています。西区事務局の加藤亮介さんによると、「少子化により子どもが減っています。今後、その割合以上に子ども会への参加率の低下が考えられます」と言います。

それでは、なぜ子ども会に参加する子どもたちの減少が予想されるのでしょうか。加藤さんは、「昔に比べて、子どもたちの休日の活動の選択肢が増えている

ことも挙げられるでしょう。以前は、休みの日の子ども会の行事は地域の大きなイベントで、近所の友達と必ず参加したものです。今の子どもたちは、市内のいろいろな施設やイベントに出掛けたり、習い事をしたりで忙しく、子ども会の行事は選択肢の一つでしかなくなっているようです」と話します。

楽しみながら学ぶ！

では、子ども会では一体どんな体験ができるのでしょうか。各地域の子ども会では、自分たちの手で趣向を凝らしたキャンプや花火大会を開催したり、公園清掃や資源回収などの奉仕活動にも参加したり、多彩な活動を行っています。

さらに、西子連が主催する区全体のイベントも数多くあり、一年を通して楽しむことができます。

八月には毎年西子連キャンプを開催。今年は豊平区にある西岡青少年キャンプ場に行きました。そこで、炊事をしたりキャンプファイアーを囲んでゲームをし

たりして夏の楽しい思い出づくりをしました。

五月と九月には深川市での農業体験。今年五月、泥まみれになりながら植えた苗が、冷夏にも負けず黄金色の稲穂となり、九月の収穫では、子どもたちが手にかまを持ち、黙々と刈り取りました。ここではまた、ジャガイモ掘りなど、札幌ではなかなか味わえない体験ができました。

今後は十月二十日に、西区民センターで子ども会まつり（区版6ヶ参照）を開催。子どもたちが出店などで盛り上げます。日ごろ、子ども会に参加していない子どもたちもぜひ参加して、その楽しさを体験してみるのはいかがでしょうか。

十一月二十四日には西区内の各地域からさまざまな年齢の子どもたちが参加する子ども会サミットを開催する予定。昨年は、子どもたちから「キャンプがしたい」、「ほかの区の子とも会と一緒に何かをやってみたい」など、これからの活動について、意見交換が活発に行われました。

西子連キャンプの一場面。西岡▶
青少年キャンプ場に行きました



▲西区のリーダーの面々。
頼もしいですね



深川市で。みんな泥まみれ▶
になっちゃいました



▲冬のリーダー研修。寒さに負けず雪像完成！